

一般質問(要旨)

市議会ホームページにて一般質問の録画配信と会議録を公開しています。詳細は16ページをご覧ください。

無所属 中村 浩 議員

Cバスについて パート21

(質問) 池田町を含めた公共交通空白地域への今後の対応をどう考えているのか。

(答弁) 本市の公共交通空白地域の考え方は、国の補助基準で、「運行区域の半径1km以内にバス停や鉄道駅がなく、交通不便地域であること」に準じ、既存の鉄道駅やバス停から1km以遠の区間としている。

本市では、池田町を含む一ノ宮地区、箕田地区、加佐登地区の一部の地域が公共交通空白地域に該当しているが、現在、該当地域から新しい公共交通システムの具体的な要望は受けていない。

今後、地域からの相談・要望があれば、公共交通の運営協議会の設置や運行経費の負担割合などについても、地域の方と十分協議した上で、それぞれの地域に合った新公共交通システムを検討する。その際には、国の補助制度などを活用しながら取り組んでいく。

リベラル鈴鹿 水谷 進 議員

内陸津波対策について

(質問) ため池の防災対策、点検結果、行政の支援について。

(答弁) 内陸津波とは、地震や豪雨によって、ため池などの堤体が決壊し、貯水していた水が流出することで下流域に被害をもたらす災害である。本市には、小さな池も含め107カ所のため池があり、そのうちの95カ所を点検した結果、地震災害や豪

雨災害対策の優先度が高いため池が41カ所あった。今後、順次詳細な調査を行い、対策が必要な場合、優先順位によりハード事業とソフト事業を組み合わせた防災・減災対策を実施する。

農業従事者の減少や高齢化の進行などによる農業労働力の低下により、水利権が返上されるため池も近年増加し、地元の維持管理能力が落ちてきているため、本市の環境保全などの費用も増加傾向にある。行政として、ため池の維持管理への関わり方について抜本的に見直す時期にきていると考えている。

リベラル鈴鹿 伊東 良司 議員

公立施設の耐震化について

(質問) 東日本大震災や熊本地震では、建物本体の被害も重大であったが、建物本体以外の非構造部材(天井材・窓ガラス・照明器具など)が破損して、子どもがけがをしたり、避難所として使えなくなった事例が多数発生した。非構造部材の耐震化対策を進めることは、災害発生時に収容避難所となる公共建築物を十二分に機能さ

せるためにも重要であることがあらためて認識された。本市の非構造部材の耐震化対策を尋ねる。

(答弁) 非構造部材の点検や耐震化対策の必要性を認識しており、「鈴鹿市耐震改修促進計画」の中でも、公共建築物の非構造部材の耐震化対策の項を設け、建築基準法に基づき、損傷、腐食、その他の劣化状況を定期的に点検している。市内小中学校のつり天井を有する体育館の全てが対策済みであり、現在は、市民会館でつり天井の落下防止工事を行っている。

公明党 藤浪 清司 議員

環境施策について

(質問) 温室効果ガス排出削減等の新たな国際的枠組みとなるパリ協定の発効を踏まえ、地方公共団体にも実行計画が求められるが、本市の取り組みについて尋ねる。また、認知症や身体的理由があり、家族や近隣の協力を得られない人へのごみ出し支援について尋ねる。

(答弁) 温室効果ガス削減目標を、2030年度に2013年度比で26%減とする「地球温暖化対策計

画」策定に伴い、本市の「地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」を改定した。クールビズ、ノーカーデー、公用車の経済運転などの省エネ・省資源行動に積極的に取り組み、広く市民へも呼びかけていく。ごみ出し支援としては、シルバー人材センターのホームヘルパー利用について新たに制度化し、早朝に対応可能とするなどの改善を図り、認知症支援福祉有償サービス「オレンジサポートかりん」の利用も推進する。また、ニーズの把握のため、ケアマネージャーなどへのアンケートや意見聴取を行う。